

重要な構成要素「だるまや」

建築（店舗）：1960（昭和 35）年

参道の景観を構成する要素

「だるまや」は、昭和初期に柴又街道敷設後の地割の変化によって生じた土地に建てられた店舗で、1960（昭和 35）年頃に建築されました。柴又街道を挟んで向かいに位置する旧「たなかや」や「ゑびす家」「船橋屋」とともに帝釈天題経寺参道をつなぐ結節点としての役割を有しています。また、参道と柴又街道が交わる角地に立地しており、参道に対しては平側^{ひら}を向け、柴又街道には妻側^{つま}を向けることによって、参道の連続性と柴又街道側の表情を同時に表現しています。柴又街道を挟んで参道をつなぐ重要な場所であるとともに、他の参道店舗と棟の向きを合わせ、屋根、庇^{ひさし}などのファサードの連続性を担保するとともに、柴又駅から柴又帝釈天に向かう参詣客を迎えるように柴又街道側に屋号とファサードを見せていることが重要です。

開け放した開放的な軒庇下では、おもちゃなどの商品を店頭販売しています。店舗外観は白モルタルを巧みに加工して漆喰^{しっくい}なまこ壁風のデザインが施され、懐かしく親しみやすい店舗風景を形作っています。